

# 日本物理教育学会 ニューズレター



## 2013年度日本物理教育学会 年会 第30回物理教育研究大 会（仙台8月10, 11日）プ ログラム決まる

いよいよ8月10日（土）～11日（日）に、2013年度日本物理教育学会  
年会・第30回物理教育研究大会（大会テーマ「震災の地で考える 物理  
の力」）が、東北大学片平キャンパスで開催されます。

大会のプログラムが決まりましたので、次のウェブサイトをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/pesj2013/>

なお、今大会の各種申込み期間は過ぎましたが、大会参加のみ申込み  
を受け付けています。参加申込みの済んでいない方は、ウェブサイトにな  
る大会要項をご参照の上、手続きをお願いいたします。

### ▶大会参加者への連絡

- (1) 会場に駐車場はありません。周辺の民営駐車場をご利用くだ  
さい。
- (2) 昼食は用意していません。8月10日(土)のみは、東北大学生協  
の食堂が利用できます。

### ▶原著講演者への連絡

- (1) Windows7, PowerPoint2007のパソコンは、大会実行委員  
会で準備したものもご使用いただけます。
- (2) 発表時間15分には、出入りと質疑の時間を含みます。  
(1 鈴：10分, 2 鈴：12分, 3 鈴：14分)

## 日本物理学会2013年秋季大 会が開催されます

日本物理学会の2013年秋季大会が以下の日程で開催されます。領域  
13の物理教育分野は物性領域の日程に含まれます。

### ▶核物理、宇宙線・宇宙物理領域

【日程】2013年9月20日（金）～23日（月祝）

【場所】高知大学（朝倉キャンパス）

### ▶物性領域（領域13 物理教育分野）

【日程】2013年9月25日（水）～28日（土）

【場所】徳島大学（常三島キャンパス）

詳細は、下記サイトをご参照ください。

<http://www.jps.or.jp/activities/meetings/index.html>

学会が関連する

イベントカレンダー

2013年8月5日(月)～9日(金)

The International Conference  
on Physics Education 2013  
(ICPE2013)

於 チェコ共和国プラハ Don  
Giovanni Conference Centre

2013年8月9日(金)

評議員会、理事・評議員懇談会  
於 東北大学片平キャンパス

2013年8月10日(土)～11日(日)

第30回物理教育研究大会  
「震災の地で考える 物理の力」  
於 東北大学片平キャンパス

2013年8月12日(月)

津波被災地視察バスツアー  
仙台駅～石巻市・女川町・東松  
島市～仙台駅

2013年9月20日(金)～23日(月祝)

日本物理学会2013年秋季大会  
核物理、宇宙線・宇宙物理領域  
於 高知大学

2013年9月25日(水)～28日(土)

日本物理学会2013年秋季大会  
物性領域 領域13物理教育分野  
於 徳島大学

学会関連イベントは、以下のサ  
イトでも紹介しています

<http://pesj.jp/event>

## 第12回アジア太平洋物理会議(APPC12)が開催されました

第12回アジア太平洋物理会議 (APPC12) が、7月14日 (日) ~19日 (金) に幕張メッセ国際会議場で開催されました。

この会議の第1回目は、1983年にシンガポールで開催されましたが、当時、アジア地域初の物理学会議ということで、多くのパラレルセッションを含んで、1週間にわたり開催されました。APPCはその後、アジア太平洋物理学会連合 (AAPPS: Association of Asia Pacific Physical Societies) が母体となり、アジア・太平洋諸国の持ち回りで3年に一度開催されてきました。

AAPPSにはアジア・オセアニアの19団体が加盟し、オーストラリア、中国、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム等のアジア太平洋地域の物理研究者で構成されます。会議は「物性物理とその応用」「素粒子・原子核・原子物理と宇宙物理」

「光・放射光・中性子等の量子ビーム分野」「プラズマ科学」「学際領域 (計算機科学, 物理教育等)」の5分野を設定して、20前後のトピカルセッション企画、最先端の研究現場からの発表や討論を行うものです。

今回は第12回目の会議となり、初めて日本で開催されました。また、初めて物理教育のセッションが実現しました。

## APPC12市民公開講座『宇宙の果てから医療の実現まで』が開催されました

APPC12が開催されるのを記念し、物理学の最新の成果が日常生活にどのようなかわりを持つかを分かり易く解説することを目指す市民公開講座『宇宙の果てから医療の実現まで』が開催されました。

超大型天体望遠鏡、光格子原子時計、重粒子線がん治療の3分野について第一線の専門家の講演がありました。

## APPC12関連シンポジウム「アジアの物理教育」が開催されました

APPC12で物理教育のセッションが開かれるのを機に、アジアの物理教育の現状を学び、互いに顔の見える関係を築こうという趣旨で、シンポジウム「アジアの物理教育」が開催されました。都内の麻布高等学校を会場に、韓国、中国、フィリピン、日本の物理教育についての講演と質疑応答を行いました。

参加者は45名で、内訳は大学教員18名、高校教員・教育センター20名、幼稚園・小学校教員2名、一般3名、留学生 (フィリピン) 2名でした。

シンポジウム後の懇親会では互いの国のより基本的な教育システムや教職課程の制度などについての話題が多く出ました。今後も引き続き情報交換を行い、互いの状況についての共通の理解の上で、様々な問題についての議論をしていく必要があることがわかりました。

## 第6回高校物理の授業に役立つ基本実験講習会が開催されました

物理教育研究会 (APEJ) は、授業で使ってほしい定番の実験の普及と、物理教員の世代交代による新入教員の孤立防止を目的に、今年度も7月14日

(日) ~15日 (月・祝) に実験講習会を麻布中学・高等学校で開催しました。(主催: 物理教育研究会 (APEJ), 共催: 日本物理教育学会・(公社) 応用物理学会, 協賛: (社) 日本物理学会, 後援: 学術図書出版社)

当日は、力のつり合い、運動の解析 (コンピュータ計測)、台車に働く力と運動、力学的エネルギーの保存、ウェーブマシン、縦波の定常波、箔検電器と電荷の移動、電磁誘導、霧箱などの実験講習を行いました。

## 特集：支部活動の紹介 (中国四国支部)

【各支部の日頃の活動の紹介をする特集を、6月号より始めました。北海道支部に続く第二弾は中国四国支部です】

こんにちは、中国四国支部です！

中国四国支部は、2007年1月8日に、四国連絡会議と中国連絡会が統合して結成されました。まだ6歳の歴史の浅い支部ですが、応用物理学会中国四国支部、物理学会中国支部・四国支部やその他の学会とも連携しながら、物理教育振興のために活動しています。中国四国の垣根を意識すること無く交流も進んでおり、今年度を目処に、四国連絡会議と中国連絡会を廃止して、中国四国支部としてより一層盛り上げていく予定です。

現在、支部会員数約120名の小さな支部ですが、他の支部の活動を参考にしながら、盛り上げていけたらと思っています。

支部では次の年間行事を実施しています。

### 「支部総会」の開催

7月の支部学術講演会にあわせて開催しています。今年度は7月27日に香川大学で開催されました。役員会は主にメール会議で実施し、支部総会の直前に集まっても開催しています。

### 「支部学術講演会」の開催

応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会として毎年開催しています。物理教育分野の講演を含み、全体で150件以上の講演があり、そのうち高校生のジュニアセッションでも20件以上の講演があります。物理教育学会中国四国支部がジュニアセッションの企画運営を担当し、応物学会からは高校生への旅費の支援を頂いています。発表に対して、高校生宛のアドバイスシートを一般の研究者に記入して頂き、高校へお渡ししています。お菓子をつまみながら高校生同士が交流できる会も開催しています。

### 「支部交流会」の開催

少し物理らしく(?)「井戸端ポテンシャルの会」と名付けた支部会員の交流会を開催しています。支部会員による教材紹介や物理教育への提案などを、井戸端会議のようにざっくばらんに意見交換しています。夜の懇親会もセットで実施しています。昨年度は広島で開催しました。飛び入りで、中国四国支部以外の方が参加されることもあります。楽しく開催しています。

### 「その他」

「リフレッシュ理科教室」や「明日から使える理科教材ワークショップ」「科学の祭典」など、各種物理教育関係行事の後援や共催を行なっています。

支部のホームページに活動の様子が載っていますので、是非アクセスしてみてください。

<http://ph1.ed.hiroshima-u.ac.jp/pesj-cs/index.html>

## 夏休みの読書に！新学期の参考書・教科書に！

E.F.Redish著・日本物理教育学会監訳

「科学をどう教えるか—アメリカにおける新しい物理教育の実践—」(丸善出版)

詳細は、下記サイトをご覧ください。

[http://pesj.jp/2012doc/maruzen\\_perbook.pdf](http://pesj.jp/2012doc/maruzen_perbook.pdf)

## 物理教育研究メーリングリスト(ML)が設定されています

この物理教育研究MLは、本会正会員(学生会員を含む)であればどなたでも参加できます。

参加を希望する会員は、subject欄に「per-ml参加申し込み」、本文として、日本物理教育学会会員番号と氏名を記載したe-mailを、MLへの投稿に使用するメールアドレスから以下のアドレス宛てに送付してください。

[per-ml-adm \(at\) pesj.jp](mailto:per-ml-adm@pesj.jp) ただし、(at)は@で置き換えて下さい。

また、このMLの詳細については次のウェブサイトを参照してください。

[http://pesj.jp/research/ml\\_per](http://pesj.jp/research/ml_per)

[事務局より] いよいよ研究大会が開催されます。昼も夜も大いに議論を深めましょう。ニューズレターで広報したい行事などありましたら、8月15日までに[news\(at\)pesj.jp](mailto:news@pesj.jp) ((at)は@で置き換えてください)へご連絡ください。編集委員会でご掲載の適否を審議し、記述を編集いたします。

発行：日本物理教育学会会長 高橋憲明  
編集：日本物理教育学会ニューズレター編集委員会  
発行日：2013年8月1日